

# 大学

FREE

## ジャーナル

vol.126 9月号  
第22巻3号・通巻126号

発行所:くらむぼん出版 〒531-0071 大阪市北区中津1-14-2  
TEL06(6372)5372 FAX06(6372)5374  
E-mail KYA01311@nifty.com

大学ジャーナル  
UNIVERSITY JOURNAL  
ONLINE

http://univ-journal.jp



### Highlight

**02 進路のヒント**  
**目指せ!グローバル人材II**  
**目指せ!日印の架け橋**  
Be a bridge between India and Japan.  
インドに新幹線と、  
日本企業で即戦力となって働く  
人材育成のための  
高等教育機関を  
作家 日印投資戦略家  
サンジーヴ スィンハさん



**03 アメリカのロースクール進学事情**  
**私がコロムビア大学ロースクール**  
(全米ランキング5位)への進学を目指した理由  
長野悟さん

**04 座談会**  
**私たち、こうして東大に合格しました!**

**05 座談会**  
**私たちが京都大学を選んだ理由**

**06 連載 哲子の相談室 16歳からの大学論**  
**シリーズ 大学が地域の核となる**  
**京都文教大学の挑戦 遊びを出前しよう!**



「遊びの出前」  
いざ出陣!

親子と一緒に遊ぶ

**07 大学ジャーナルオンラインから**

**08 日本語力を高めようII**  
**言葉に映せて、初めて知っていることになる**  
宇宙物理学者 京都大学名誉教授 佐藤文隆先生

### コラム

石井先生が日ごろから大事だとしているのが、「出る杭」「道程力」とこの「造山力」。「アドビが作ったツールでいくらクラフトデザインしてもアドビという軛の掌からは逃れられない。ベジェカーブのツールを使う限り、カーブはいつもベジェカーブになる。人の作った作法、ツールを使っているのは次のジャンプはできない」と石井先生。石井先生のメディアラボでの研究成果は、ピンの蓋を開けると香りが立ち上る香水瓶のアナロジーから、蓋を開けると音楽が聞こえる「ミュージックボトルズ」(1999年)に始まる。その後タンジブルメディアグループを率いて「サンドスケープ」、『I/Oブラシ』、一連の「トランスフォーム」、『バイオリジック』など、数々の概念、デザイン、作品を発表している(いずれもタンジブルメディアグループのプロジェクト)。究極の目標は、ラジカルアトムズという概念の実現。これは、情報と物質との関係を究極まで緊密にし、ダイナミックな情報の変化に応じてインタフェースとなる物質も柔軟に変化し、人と対話するというもの。

## 大学トップから高校生へのメッセージ(特別編)

# アートとサイエンス、テクノロジーとデザインで未来を創ろう

## イノベーターであること、グローバルであること

直接手に触れることのできる物理的実体を介してコンピュータと対話するタンジブルユーザインタフェース(Tangible User Interface: TUI<sup>※1</sup>)の概念を提唱し、新しい人とコンピュータとの関係を追究するMITメディアラボ<sup>※2</sup>副所長の石井裕先生。MITは世界大学ランキングでも常にトップランクに位置付けられていますが、そこは「学生にとっても教員にとっても世界で最も熾烈な競争の場でもある」と先生は言われます<sup>※3</sup>。その第一線で、長年、日本人として活躍され、この春からは大阪芸術大学に新設されたアートサイエンス学科でも客員教授を務められる先生に、ご専門の一端や、イノベーターであること、独創性について、またグローバル人材に求められることについて語っていただきました。

<sup>※1</sup> 石井先生によると、「物理世界とデジタル世界の間の大きな難を埋めるため、情報の表現とその操作手段を分離せず一体化する、つまり、情報に物理的実体を与えることで、直接手で触れて操作できるようにし、かつ複数のユーザが同時に操作できるように協調型のインタフェース」ということになる。日頃私たちが使っているのはグラフィカルユーザインタフェース(Graphical User Interface: GUI)  
<sup>※2</sup> MITの数ある研究所の一つ。1985年、建築・計画スクールに設立。初代所長はニコラス・ネグロポンテ。デジタルによる表現とコミュニケーションを研究している。  
<sup>※3</sup> 「米MITの独創・協創・競創の風土」(2009年)に詳しい

### 独創性と社会へのインパクトを求めて

国内の大手通信会社で、ヒューマンインターフェースとコラボレーション技術の研究をしていた私に、MITに行くようにと声をかけてくれたのは、パーソナルコンピュータの父と言われるアラン・ケイ(Alan Kay, : 1940年~)。その彼は1971年、「未来は予測できない。しかし創るものだ」(Future is not to predict, but to invent)と話しています。

未来をどう創るか。

このことはメディアラボの、そして私自身の研究のプリンシプルでもあります。そのために最も大事にしているのが独創性。MITメディアラボへの採用に当たって、設立者の一人だった計算機科学者ニコラス・ネグロポンテ(Nicholas Negroponte : 1943年~)は私に、「これまでの延長線上の研究ではなく、これまで誰も足を踏み入れたことのない全く新しい領域を切り拓いてほしい。人生は短く、新しいことに挑戦するのは最高の贅沢だ」と語りました。この一言が、その後の私の研究者人生を決定づけたと言っていいでしょう。

MITでは世界トップクラスの頭脳を集め、世界をリードする研究を目指しています。すでに日本でそれなりの成果を上げ、それを請われて招かれた私には、MITでもそれを続けていけばいいと考えていたところがありました。しかし今振り返ると、それではMITでテニユア(tenure:終身在職権)を取り、今日まで第一線で活躍することはできなかったのではないかと思います。

MITで求められるのは革新的研究



マサチューセッツ工科大学  
(MIT: Massachusetts Institute of Technology)  
教授・メディアラボ副所長  
大阪芸術大学客員教授  
石井 裕 先生

1956年東京都生まれ。北海道大学工学部電子工学科卒業。同大学院情報工学専攻修士課程修了。電電公社(現株式会社NTT)入社。工学博士(北海道大学)。西ドイツ(当時)のGMD研究所客員研究員、NTTヒューマンインターフェース研究所、トロント大学客員助教授を経て1995年MIT教授。「タンジブル・ビット」の研究で世界的評価を得る。北海道札幌南高等学校出身。

で、その要件は独創性と、社会に価値あるインパクトを与えられることを示すこと。「パイオニアとして新しい分野を切り拓いたと世界が認知したか」「その新しい分野は人類にとって本当に重要か」が問われるのです。そのためには従来の延長線上の研究ではなく、これまで誰も手掛けなかった新分野を切り拓き、そこに一つの《山を造る》ことが求められるのです【コラム】。

独創性に関して、私が日頃から欠かせないと考えているのがヴィジョンです。

テクノロジーは日々進化しますから、新しい技術でも、極端な場合、一年で廃れることもあります。それを応用したアプリケーション、プログラムやシステム、製品なども、使う人のニーズの変化に対応できるのは長くて10年ぐらいかもかもしれません。しかしヴィジョンは、それが本物なら100年以上生き続け、われわれの死後も人々の創造力を刺激し続けることができるかもしれません。

ではそんなヴィジョンはどうしたら描けるか。それにはまず、自分の目を、すなわち視点を、この地上から離し宇宙に飛翔させることです。私たちは自らの視点からしか世界を見ることができませんが、そうすることではじめて、ちょうどハッブル・スペース・テレスコープやボイジャーが地上の望遠鏡では解明できなかった天体の真の姿を教

えてくれたように、そこから自由に俯瞰することで、自分たちの住んでいる星全体を、さらにこれまで誰も見たことのない地平を見ることができるようになる。そのために最も重要な示唆を与えてくれるものが、私はアートだと思っています。

### アート、そしてサイエンス、デザイン、テクノロジー

MITメディアラボは、すでに30年以上も前に、アート&サイエンスという新しい領域の創出を視野に出発しています。私たちはアート&サイエンスに、デザイン、テクノロジーを加えた四つの研究領域の間を往還し、それらを融合することによって未来を創りたいと考えています。

サイエンスは自然界の原理を定式化し、その知識を利活用できるようにするもの。一方アートは、誰も問わなかった新しい問いを発し、新鮮な問題提起をすることで、私たちの視野を広げ、全く新しい地平を見せてくれます。デザインは、問題を解決する手法であり、テクノロジーはアイデアを実現する手段と言えるでしょう。それぞれ考え方もアプローチの手法も異なりますが、そこが面白いところ。各々は役割の違いを超えて有機的に関連していて、各空間を自由に動き回り、そこで様々なことを試し、そこから生まれる様々な



アイデアをぶつけ合い融合させることで、新しいもの、新しい価値を生み出すことができます。ドイツ語で言うところの《止揚》です。求められるのは、四つのランゲージを流暢にしゃべり、なおかつアイデアを各空間の中で自由に翻訳できるインテリジェンスです。

その中でも私が最も大事なものと考えているのがアートです。それは人間の知的生産の中で最も神秘的なものであり、デザインシンキング※4よりさらに上流の新しい視点を提供するものでもあります。未来を創る際には、最も重要なヴィジョンを実際に形にし(envision)、人々を感動・鼓舞(inspire)することが不可欠です。感動はアートが作り出します。ちなみに形になったものを具現化(embodiment)するのが、サイエンスとデザイン、テクノロジーの融合です。

世界は今、猛スピードで変化しています。大事なものはその全体像を視野に入れ、なおかつそのどこかにフォーカスすること。アートとサイエンス、デザインとテクノロジーの融合する文脈の中で、議論を深め研鑽し、自ら発信し続ける中から、必ずや未来に対しての新しい道が開けてくるのではないかと私は考えています。

※4 ユーザのニーズなどに対して新しいアイデアを生み出し、それを何度も繰り返しテストすることで問題の解決を図る手法。デザイン思考とも。

### グローバルであるために

私はよく、グローバル学習(グローバル人材になるための学習)には『海外雄飛と他流試合』が必要だと言っています。グローバルな感覚は、居心地の悪いところに自らを置き、全く異なる価値観を持つ人たちの中に飛び込み、彼らとぶつかり合い、競争し切磋琢磨し、その過程で自らの力も知った上で、何かを彼らと『協創』していくことでしか身につか

#### 言葉について

私は様々な表現について考えてきましたが、やはりその中でも、言葉の力は、当たり前ですが最も抽象度が高く、パワーも強烈です。TVなど、映像を見ていく理解しているつもりになっても、それについて自ら表現することはできません。もちろん言葉を理解し、駆使していくにはイマジネーションが不可欠なことは言うまでもありません。

ない。均質な社会で育ってきた日本の若者は、異なる文化の中に放り込まれてはじめて、世界の多様性に気づき、適応力の無さや、思考が柔軟性や論理性に欠け閉塞状態にあることにハッとさせられます。大事なものは、そのショックを乗り越え、多様性を尊重しつつ、自分のアイデアを異なる価値観を持つ相手に理解してもらえるように翻訳する訓練をすること。戦って相手を打ち負かすのではなく、お互いのよいところを認め合い、違いを《止揚》して、新しい相互理解の基盤を作っていくことです。

もちろんそれ以前に、海外に雄飛したいという志があるかどうかは問われることは言うまでもありません。もしみなさんがアメリカへの留学を考えているなら、そこは厳しい競争社会であることを覚悟しておかなければなりません。お金もかかる。だから、世界の舞台で活躍したいという、よほど強い気持ち、志がなければ勧められません。しかしもし、そんな気持ちが湧き、基礎的な学力、知力に不足がなければ、英語力があるかなかなどは問題になりません。それは勉強すればいいだけだからです。反対に言えば、本当に行きたいという気持ち、伝えたいアイデアがなければ英語も上達しないと思います。

見方を変えれば、ツールとしての英語のスコアがどれくらいあれば、あるいはこれを勉強しておけばどこへ入りやすいなどの、テクニカルな対策には意味がありません。大事なものは、世界に自分が貢献したいという夢、ヴィジョン、志を持っていること。これは受験競争で求められるものとは違いますし、それを育むのに、ここを押さえおけばいいというようなレシピはありません。逆にそういう志さえあれば、大学生や高校生になるのを待たず、中学生の内から留学してもいい。今はインターネットなどで事前に勉強する方法はいくらでもあります。間違っても単なる憧れだけで留学を考えるべきではありません。強い志と情熱を持って、最高レベルの教育と研究を進めている学校、大学に挑戦し、独創性を徹底的に磨く異種格闘技を通して、自分を鍛えてください。

#### 進路のヒント

## 目指せ!グローバル人材 II

# 目指せ!日印の架け橋

Be a bridge between India and Japan.

## インドに新幹線と、日本企業で即戦力となって働く人材育成のための高等教育機関を

人口13億1千万人(2016年)、急速な経済成長で、GDPもいずれ日本を抜き、中国と拮抗すると目されるインド。貧富の差は今なお激しいとはいえ、その秘められたパワーには世界が注目しています。そのインドを象徴する大学がIIT(インド工科大学: Indian Institute of Technology)。この超難関大学出身者はアメリカを中心に世界各地で活躍しています※1。サンジーヴ スィンハさんもその一人。故郷のインド・ラージャスターン州のバルメルという町から初めてIIT(カンブール校)に進学した町の英雄です。物理学を志し、卒業後はAIの技術者として日本企業に就職。その後、金融工学を学び、資産運用会社の顧問などを務めてこられました。この間日本に魅了され、今では、日印をつなぐコンサルタントとしても活躍。この9月には、日本の協力でインドに敷設予定の高速鉄道※2のJRのアドバイザーにも指名されました。そんなグローバル人材のスィンハさんに、日本について、日印関係のこれからについてお聞きするとともに、日本の高校生へのメッセージをいただきました。

※1 カンワル・レキ(Kanwal Reki):アメリカのIT革命に貢献。ニティン・ノーリア(Nitin Nohria):ハーバード・ビジネス・スクール前学長、現学部長。サンダー・ピチャイ(sundar pichai):グーグル現CEOなどがよく知られている。  
 ※2 アーメダバード(Ahmedabad)ームンバイ(Mumbai)間の高速鉄道。日本から日本円にして総額約1兆6,700億円規模による50年間の低利の資金援助を予定している。

### 瞑想の国?、日本

私は日本のすべてが好きで、これまで、事あるごとにその素晴らしさを発信してきましたが※3、その根底にあるのは、人々の心の安定だと考えています。戦後に経済大国となった日本は、規模の大きな国では世界で一番平和で、多くの人々には生活する上での危機感がないように見えます。明日やるべきことが決まってい予定も狂わないから、何事も落ち着いてこなせ、ストレスも少ない。各自が仕事をスムーズにこなすことで社会も落ち着いていて、全体の計画も円滑に進められる。暴力沙汰も少ないだけでなく、人々の視野が広がっているため、小さなことでも楽しめる。桜の花の開花に国中で一喜一憂できる国も少ないのではないのでしょうか。人にも親切にできる。骨折して車いす通勤をした時期がありましたが、病院だけでなく、タクシーの運転手さん、通行人の方たちなど、行く先々でみなさんが進んで介助してくれるのには感激しました。

日本人は心配性だとよく言われますが、外国人の目にはそうは映りません。特にインド人からは、象徴的な言い方をすれば、みな「瞑想」しているように見えます。瞑想は自分の心を安んずることに、結果としてハピネスも得られるというもので、先進国の間で注目されているも

のですが、インドがその中心です。最近では孤独に悩む人が増えているとも言われますが、それは孤独でも生きていけるほど社会がしっかりしていることの裏返しでもあると思います。

※3 「すごいインドビジネス」(2016年:日本経済出版社)、「インドと日本は最強コンビ」(2016年:講談社新書)、「すごいインド」(2014年:新潮社)

### 日本のテクノロジーをインドへ。インドで日本のテクノロジーに貢献できる人材を育成

人々の心の安定に寄与しているものの一つが、住環境をはじめとしてインフラが整っていること。それがまた生産性を高め、さらに人々の心を安定させるという好循環を生んでいます。

その象徴が新幹線。最高時速ではフランスのTGVに一步譲りますが、狭い土地柄や、地震や台風などの自然災害が頻繁に起こることを考えるとどうでしょうか。東海道新幹線には「のぞみ」、「ひかり」、「こだま」の三種類があり、乗客の利便性という点では格段に優れている。しかもそれをほぼ10分間隔で動かすシステムは驚異的です。運行上での死亡事故は50年経った今も0です。

現在インドは、日本からこの新幹線を導入しようと計画していますが、真っ先に問題になっ

芸術計画学科 2018年4月リニューアル!

世界を変えるプロデューサーだ。

小さくまとまるな。常識にとらわれるな。  
めざすなら、何十億を動かすプロデューサー、

芸術計画学科

アートプロデュース/イベントプロデュース

---

全天周投影の実験ドーム、  
(計画中) 4K・8K、VR、水中撮影、空撮(ドローン)…。ここでしか追求できない、

映像表現の新たな可能性に挑め。

フライングアート/プロフェッショナル/映像表現

2017年4月 始動!

写真学科

---

声優をはじめ、メディア産業の  
最前線に立つプロをめざして。

制作コース/アナウンスコース/広告コース/声優コース

放送学科

---

**学科** アートサイエンス 美術 コース: 油画/日本画/版画/彫刻 **デザイン** コース: グラフィックデザイン/イラストレーション/デジタルメディア/デジタルアート/プロダクトデザイン/空間デザイン/デザインプロデュース **工学** コース: 金属工芸/陶芸/ガラス工芸/テキスタイル/染織 **写真** **建築** **映像** **キャラクター造形** コース: 漫画/アニメーション/ゲーム/フィギュアーツ **文芸** **放送** コース: 制作/アナウンス/広告/声優 **芸術計画** **舞台芸術** コース: 演技演出/ミュージカル/舞踊/ボイタリダンス/舞台美術/舞台音響効果/舞台照明 **音楽** コース: 音楽・音響デザイン/音楽教育 **演奏** コース: ピアノ/声楽/管弦打/ボイタリ音楽 **初等芸術教育** コース: 初等教育/芸術療法

大阪芸術大学

〒585-8555 大阪府南河内郡河南町東山469 TEL: 0721-93-3781(代表) 大阪芸術大学 検索





作家、日印投資戦略家  
**サンジーヴ スィンハ**  
(Sanjeev Sinha)

**Profile**  
作家、日印投資戦略家。インド工科大学(IIT: Indian Institute of Technology)卒。



てくるなど、積極性も目立ちます。しかし全体的にはまだまだ少数派ですから、国も大学ももっとこういう学生の存在をアピールしてほしいと思います。

高校生に対しては、英語が使えるというインド人のいいところを見習ってほしいと思います。インドは多民族国家で、私たちは異なる言語に触れて育ってきているから、外国語の習得には有利なのかもしれません。しかしそれ以上に、格差社会の中で、英語が使えることが、貧困層に育ってもそこから抜け出したり、世界で活躍できたりするための有力な手段と捉えられているからではないでしょうか。もちろんインド人がみな英語が使えるわけではありません。使えるのは一握りの人々、ただその一握りが、ほぼ日本の全人口に当たるのです。

IoT、人工知能、ロボット技術の進化によるインダストリー 4.0の世界では、細かい作業は機械がして、物流に自動運転が活用されるなど、人間の働き方は大きく変わると言われています。そこでもっとも求められるのが、人間が人間らしくあること。大前提となるのは豊かなコミュニケーション力、グローバル社会では英語によるグローバルコミュニケーション力です。

私がみなさんに英語力を高めてほしいのは、日本の良さをもっと積極的に発信してほしいからでもあります。日本の良さの多くは、実際に日本に来てみないとわからないものが多く、日本人の謙虚さや語学力の弱さがそれに拍車をかけています。

加えて、日本の良さを継承していくことにも意識的であってほしいと思います。中でもその根幹にある伝統文化や習わしは最も重要だと思います。「目上の人を尊敬する」、「人目を気にする」、「年功序列」など、今の日本社会ではあまり意識されなかったり、マイナスに受け取られたりしているような特徴も、他者を思いやるなどの、誰もが良いとしているところと同様、ここに由来しています。

これらは一旦失われると取り戻すのが大変なものです。だからこそ、もっと意識的であっていいのではないのでしょうか。

のが人材不足です。

新幹線を500km整備するには約8,000人のエンジニアが要ると言われますが、インド国内では全く手当てできませんから、当初は日本から派遣してもらう必要があります。しかし日本の建設会社は現在、国内の仕事で忙しく、派遣先にはインドネシアなど、これまでのつながりの深いところが優先され、インドまで手が回らない。また英語を話せる必要があるという条件もあります。

そこで私は、昨年モディ首相(ナレンドラ・ダモダルダス・モディ)が来日した折、日本に教員や企業の技術者を送ってもらい、インド国内に、日本企業に必要な人材を育成する大学を産学連携で作ることを提案しました。失業率の高いインドにとってはありがたいことですし、日本も、卒業生が親日になり、日印の架け橋になってくれることを期待できます。

このアイデアが日印の首脳会議で取り上げられ、インド国内の三か所で開設する計画が持ち上がっています。日本はすでに2008年、IITに多額の出資をして、ハイデラーバード校(IITH)開設に貢献しましたが、いまだにそれに見合った人的交流が図れていません。少子化は日本の唯一のアキレス腱だと思いますが、それに対して企業がもっと協力して、海外から優秀な人材を招くことは急務です。しかもできれば、日本に合った、日本が好きで人財であることが望ましいですから、この計画はまさに一石二鳥ではないかと思っています。日本に合った、とは、日本の伝統や習慣を尊重し、先輩を立て、みなと協力しながらキャリアアップを図ろうという人です。日本では、アメリカと違い、先輩の頭ごなしに出世したり、若いうちに億万長者になったりするのは難しいのです。

**日本の高校生へのメッセージ**

最近の日本人学生は全体的に英語も上手になり、インドで仕事をしたいと私のところへやっ

**アメリカのロースクール進学事情**

**私がコロンビア大学ロースクール(全米ランキング5位)への進学を目指した理由**



長野 悟さん

ロサンゼルス郊外トランス市生まれ。9歳の時に日本に引越し、東京都のインターナショナルスクールを卒業後に帰米。コミュニティカレッジからカリフォルニア大学パークレー校に進学、さらにカリフォルニア大学デービス校のロースクールに入学後、1年目に編入申請を行い、2017年秋からアイビーリーグのコロンビア大学ロースクールに進学。趣味は料理、旅行、ハイキング。

**学部生時代のインターン経験**

弁護士になりたいと思ったのは、自分自身が興味を持って仕事であると同時に、人々の人生に影響を与えるようなキャリアに就きたかったからです。

カリフォルニア大学パークレー校(以下UCパークレー)の学部生時代には、経済的な理由でプロフェッショナルな法律サービスを受けることができない地域の相談者を、無料で世話をすチューデント・リーガル・クリニックでインターンとしての経験を積みました。彼らが必要とする知識を提供し、法的問題の解決に当てることに大きなやりがいを感じました。さらに、インターンシップで私が手がけた法律面での調査と、実際の人々に法律を適用させることに興味を持って取り組むことができました。これらの経験から、私はロースクールに進学することを決断しました。受験準備を始めたのは2016年2月でした。そして2016年7月にUCデービスのロースクールに入学しました。

ロースクールの成績は、往々にして、学期の最後に行われる1回だけの試験で決定されます。そこで私は、その試験で失敗しないように細心の注意を払いました。まず、法的な分析をしっかりと行い、理路整然とした文章にすること。そして次に法律の種類が何であっても、自分が分析する法律において、一連の試験問題が示す事実に自分の文章が適合するよう綿密な構成にすることに集中しました。その準備を毎日するのと同時に、タイピングの練習にも力を注ぎました。当時、自分の考えを書面にするのにその速度が十分でなくフラストレーションを感じる学生が少なくないと聞いていたからです。

**ロースクールでの戸惑い**

入学後、私は同じロースクールに通う学生たちがいかに優れているかに驚かされました。アメリカのロースクールでは、ソクラテス式問答法を採用しています。これは、教授が授業中、学生に様々な質問を投げかけ、学生はその質問への回答を通して理解を深めるという方式です。人前で話すのは、実は私にとっては苦手なことの一つでしたが、よく見逃されるのですが、授業での発言は学生の最終的な成績にはほとんど関係がありません。そこで私は、賢明に聞こえるような発言することに意識を注ぐのではなく、むしろ自分で立てた勉強の計画に集中するようにしました。

それでも講義での同僚学生の発言からは、私が考えもしなかったことについて常に分析し、それを上手に言葉にする賢さがうかがわれ、私は脅威さえ感じました。ロースクールでの試験は相対評価ですから、彼らは私の直接的な競争相手なのです。しかし、コツコツと試験の結果に向けて取り組んだ私は、クラスで目立った発言ができなかったにもかかわらず、上位の成績を獲

得することができました。

**チャンスを探る**

私がUCデービスのロースクールから別のロースクールに編入したいと思ったのは、より大きなチャンスをつかみたいと思ったからです。UCデービスの修了生は(カリフォルニア州) サクラメントの地元の法曹界に就職していきます。しかし、秋学期の成績を確認した時、サクラメントの外に出たいと希望していた私は、「この成績なら別のロースクールに行ける」ということに気づきました。さらに、ランキング上位のロースクールに行けば、就職のチャンスが広がり、アメリカのどこでも働けるようになるのです。

編入の準備は秋学期のうちに始めました。ロースクールでの見込みの成績表、教授からの推薦状、そして志望動機について書く論文に着手しました。その時点で成績は確定していませんでしたが、教授とは早い段階から信頼関係を構築し、推薦状を書いてくれるように依頼しました。春学期には推薦状を集めて、論文を完成させました。そして春学期の成績を受け取ると同時に申請書を提出しました。

私が編入を志願して合格したのは、コロンビア・ロースクール以外に、ペンシルベニア大学、UCパークレー、ジョージタウン、シカゴ大学です。そして、その中からコロンビアを選んだ理由は、卒業後に得られるチャンスが最も大きかったからです。同校は、アメリカのロースクールとして、常にトップ5にランクインしているだけでなく、修了生の就職率が高いのも魅力です。UCデービスと比較すると、私の将来的なキャリアにおいて、より広いネットワークを構築できると確信しています。またニューヨークにありますから、そこへ通うことで、米国法曹界に最も近い場所で学ぶことができるのです。

私の目標は、ロースクール修了後、すぐに米国海軍の法務官になることです。その後、訴訟を扱う民間の法律事務所、または司法省や連邦地検で働きたいと思っています。しかし、働く場所はどこであっても、人々の人生に影響を与えることのできる法律の専門家として尽力していきたいと願っています。

(資料)

Best Law School 2017(U.S.News発表)

1位	イェール大学
2位	スタンフォード大学
3位	ハーバード大学
4位	シカゴ大学
5位	コロンビア大学
6位	ニューヨーク大学
7位	ペンシルベニア大学
8位	ミシガン大学アナーバー校
9位	バージニア大学
10位	デューク大学

**「教育」の神戸松蔭**

~Open Heart SHOIN~

「神戸松蔭」は、さらに学生のための変革を予定しています。

2017年4月 新学科「都市生活学科」「食物栄養学科」開設

**神戸松蔭女子学院大学**

〒657-0015 神戸市灘区篠原伯母野山町1-2-1  
お問い合わせは **TEL 078-882-6123**  
お気軽に

神戸松蔭 検索  
阪急六甲、JR六甲道各駅からバスでらくらく通学。

- 人間科学部
  - 都市生活学科(都市生活専修、食ビジネス専修)
  - 食物栄養学科(管理栄養士養成課程)
  - ファッション・ハウジングデザイン学科
  - 子ども発達学科(幼小教員養成課程) [保育士養成課程]
  - 心理学科(公認心理師資格取得対応)
- 文学部
  - 英語学科(英語プロフェッショナル専修、グローバルコミュニケーション専修)
  - 日本語日文化学科
  - 総合文芸学科

**2018年度 推薦入学試験日程**

入試方式	出願期間	試験日
A日程 [調査書重視型]	10/10(火) 10:00 ?	10/28(土)
B日程 [基礎学力重視型]	10/20(金) 17:00	10/29(日)
C日程 [得意教科重視型]	11/22(水) 10:00 ? 12/4(月) 17:00	12/9(土)

**TOPICS**

- ① 高校生の時に取得した資格を活かした受験が可能!  
(試験当日は面接のみ)  
● 専門学科等有資格者対象特別入試(専願)
- ② 入学生特別奨学金の受給者を合格者上位20%に拡大!  
● 推薦入試S判定 ● 一般入試(A日程・B日程)

松蔭女子学院は 125TH  
2017年に創立125周年を迎えました。



# 東大合格者 座談会

## 私たち、こうして東大に合格しました!

今春、東京大学に入学した5名の先輩に、受験勉強や入学してみたの感想などを語り合ってもらいました。

### なぜ東大へ?

**柳瀬** もともと麻布は東大を受ける生徒が多く、僕もその流れの中で高2くらいから東大を受けることになるのかなと感じていました。成績的にも問題なかったので、5月に部活を引退してからは本格的に受験勉強を始めました。特に目的があって東大を目指したというよりは、東大是最難関大学で、さらに文科I類は文系の中で最難関だからという感じです。また文Iは、入学してから法学部か経済学部で迷っても、両方に行きやすいということもありました。

**甲斐** 柳瀬君と同じで、特に目標があったわけではありません。高校受験の時から、旭丘に行ってさらに東大へというように考えていました。文Iにしたのはやはり文系の中では最難関だからで、東大法学部というブランドにも憧れがありました。

**富山** やはり志望理由は単純に最難関だったから。とりあえず高いところを目指せば、何かの理由で目標を多少下げざるをえない状況になっても、必ずそれなりのところに入れるだろうと。どんな研究がしたいかは決まっておらず、実際に何類を受けるかは後で決めようと思っていました。医学系、理学系のどこへでも行けるという意味で、理Ⅲも視野に入れていました。

**近藤** 高1から部活に熱心に取り組んでいましたが、期末テストの点数がそれほど悪くなく、先生からも東大を目指すだけのポテンシャルがあるのでは、と言われたのがきっかけです。東大に行けたらカッコいいなというのが一番大きな理由ですかね。

**長森** 私は高2までは京大志望。自由な校風に憧れて。ただ、先生が結構東大押しで、建築なら東大に行きなさいと。それで高2の終わり頃に東大を見学しに行き、そこで「あ、いいなって」、高3の初めに志望校を東大に変えました。

### どんな勉強をしてきましたか?

**柳瀬** 基本的には独習で、あまり塾には通いませんでした。数学と英語が結構得意だったので、受験勉強の7.8割は社会に割きました。学校の授業の質は高く、国語や世界史は学校のそれで十分。数学が得意だったのは、7月ぐらいまでに教科書を全部終わらせ、あとは何もなくていいような状況になっていたからです。

**近藤** センター試験について言うと、内容自体はかなり平易なもの、形式がかなり決まっているから、過去問や類題をどれだけ解いたかでかなり得点が変わると思います。優秀な人でも簡単に点が取れるとは限らないから、それなりの対策

は必要です。

**富山** 公立校では、本当にセンター第一って感じですね。直前期には授業が全てセンター演習に変わる。実際、慣れていないと難しい問題がかなり多く、時間配分もそうとう工夫する必要がある。逆に数ⅡBや理科についてはセンター演習はあまり必要ないと思います。

**長森** 私も普通の公立高校に通っていましたが、化学などは本当にギリギリでした。先に進むタイプでもなかったのですが、先に進んでいる人をすごいとも思っていました。

### 大学生活について

**甲斐** 「初年次ゼミナール」という授業で、土曜日にグループで集まって渋谷で聞き込みとかしましたが、結構楽しかったです。

**長森** 東京に来てからは、自分が毎日成長しているのを実感しています。最初は本当に寂しくて死にそうでした(笑)。

元々一人暮らしできるとは思っていませんでしたが、1カ月経つとわりと平気になり、自分の適応能力の高さに感動したというか、自分で変わったなというのをすごく感じています。

**近藤** 浪人したこともあり、大学生活にはかなり期待していました。浪人中は受験勉強しかできなかったから、大学に入ったら自分の好きな勉強ができるぞと。しかし実際入ってみると、必修科目が詰まっていたので手いっぱい、少なくとも今の段階では、まだ興味のある勉強ができていません。

**富山** 必修でいろんな授業を受けていますが、教科書に沿ってやっているものが多く、どの分野が面白いかを体験的に確かめたり、目指すものを探したりする時間はあまりありません。

**近藤** 「英語中級」という授業にはみなでこずっています。僕は小さい頃から英語を習っていましたから多少は話せますが、僕よりも入試の英語の点数が高かったと思われる人も全くできなくて、先生

から見えないところでは?こっそり日本語で喋ることもあります(笑)。

**富山** 話せるかどうかには経験の差がかなり出る。だから英語でしか話せない状況に1カ月放り込めば、かなり喋れるようになると思う。同じ語学留学でも、留学先で日本語を使わない環境に身を置くと一気に伸びるって聞いてます。

**柳瀬** 確かに。ただ、僕は1年間留学したけど、帰ってきてから、英語は余裕だなと思って止めてしまったら、一瞬で元に戻った。

### 先輩へのメッセージ

**長森** 全く合格ラインに達していなかったのに受かりましたから、やはりミラクルはあると思っています。「諦めなかったらできることもある」って。受かると思っていた人も落ちることはあるし、私みたいな人が受かることもあるのだから、諦めないことが本当に大事だと思います。



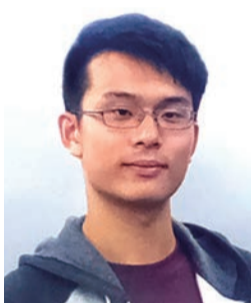
柳瀬 達矢さん  
文科I類  
麻布高等学校出身



甲斐 凜太郎さん  
文科I類  
愛知県立旭丘高等学校出身



近藤 潔さん  
理科II類  
岐阜県立岐阜高等学校出身



富山 毅さん  
理科III類  
三重県立四日市高等学校出身



長森 咲都さん  
理科II類  
石川県立金沢泉丘高等学校出身

**近藤** 僕の母校では、みな部活や文化祭にすごく情熱を傾けます。僕も本気でテニスをやり、高3の9月の文化祭にはバンドを組んで出演もしました。先生はそういう生徒たちを前に、「第一志望に合格するような者はみな部活も文化祭も本気でやっている」と常に言いますから、学校全体がそういう雰囲気包まれていました。僕自身もやはり、高校3年という時期は人生で一回しかないから、自分のやりたいことをやろうと部活もギターも本気でやりました。

現役の東大受験では点が全く取れず、浪人することになりました。そこでまず気づいたのは、自分の勉強量が全く足りなかったこと。一緒に浪人していた中高一貫校の出身者によれば、僕らが高3でやっていたことは高1、高2で終わらせていたとのこと。浪人した最初の授業では、できて当たり前とされる問題に全く手も足も出ず、「こんなに差があるんだ」と痛感させられました。

それからは本当にひたすら勉強の毎日。入試本番まで、勉強しなかった日は10日もないぐらいで、成績もそれにつれてぐんぐん伸びました。やはりやらな

ければ伸びない。東大入試に合格するようなレベルに達するにはある程度の量をこなすことも必要ですから、高校生活を思い切り楽しみたいと考えている人も多いとは思いますが、勉強との折り合いをつけることも大事です。

こう言うと、部活を止め、文化祭にも参加したいけど止めて勉強しようかと考える人も出てくるかもしれません。しかし僕にとって、高3で勉強を犠牲にして部活や文化祭に命懸けで取り組んだことは、これまでの人生で一番の思い出であることも確かです。だからすごく複雑な心境ではありますが、僕自身は浪人して本当に良かったと感じています。親には本当に申し訳ないと言以外にありませんが、自分と向き合う時間も取れたのですから。

**甲斐** 僕の学校では、入学した直後から浪人は普通だという雰囲気が流れていました。特にラグビー部は大変だったので、浪人を覚悟している部員が多くいました。しかし僕は定期テストで良い点数を取りたかったため、部活のない定期テスト週間に集中的に勉強しました。そのおかげで、高3の文化祭が終わり入試ま

で時間が全くないと感じる反面、積み重ねの効果があることを実感しました。

**富山** 部活や高校生活を楽しむことが大事で、勉強は二の次という言い方をよく聞きますが、僕はやはりそれは違うと思います。勉強したくないから勉強時間を減らす。ここまでは別に問題ないけれども、それと成績が落ちていいこととは同じではない。仕事ができる人が、仕事を要領良く終わらせて余った時間に遊べばいいと言うように、頭を使って要領よくやるにはどうすればいいかを考えれば時間は浮く。誰でも振り返ってみれば無駄な時間というのはあるはずだから、楽しむための時間は勉強の成績を下げず作るのではなく、勉強のやり方を工夫して作り出すものだという認識を持ってほしい。

**柳瀬** その通りだと思う。僕は点数マニアではないけれど、定期試験一週間前には、平均点を切らない程度にはやっておこうと思っていました。「あの時勉強してなかったから時間が足りない」などということがないように、やはり少しずつでも、常に勉強しておくことが大事だと思います。



# 京大生 座談会

## 私たちが京都大学を選んだ理由

関東の高校から京都大学に進学した4名の先輩に、京大の印象や受験生へのメッセージなどを語ってもらいました。

### 関東圏から京都大学に行こうと思ったきっかけは？

**南日** 読んでいた本の著者が京大の先生だったことがきっかけです。もともと政治関連の事柄に興味があり藤井聡先生や中野剛志先生らの本を読んでいました。京大生の兄が中野先生の少人数ゼミを受講していて影響を受けたこともあります。

**松本** 教職に就くより教育学に興味があって大学を探していました。関東の国公立で教育学が学べ、しかも総合大学ということになるとやはり東京大学という選択肢が浮上してきました。しかし、私の勝手なイメージですが、東大は何となくレールが敷かれている気がしていて、それが自分の通っていた高校と似ていて、そういうものから抜け出してみたいという感覚がありました。そう思っている中で視野に入ってきたのが京大です。京大には「変人」が多いって聞いていたので、自分が考えもしなかったことを考えている人に会えるかもしれないと思い京大を志しました。

**堀田** 母が大阪出身で、近畿地方には親近感がありました。また東京に少し飽きていたこともあり、地方へ出てみたいとも思っていました。全国の大学を調べていく中で東北、北海道にも魅力を感じましたが、近くに親戚がいて親も安心と京都や大阪を考えました。高校はすごく東大を推してきてたのですが、ただ従うのは嫌で東大は考えませんでした。高3の夏ごろは阪大志望で、阪大のOC(オープンキャンパス)も見に行きました。しかし、ついでに覗いた京大のOCで受けた模擬講義が自分のやりたかったことそのもの。そこで、京大を志望することにしました。

**熊谷** 中学生のときに読んだ『夜は短し歩けよ乙女』がきっかけです。作品に描かれた京大のキャンパスライフに惹かれて、ずっと京大を夢見てきました。宇宙工学、特にそれに関連する機械を作ってみたかったので入ったのは工学部。京大は理論分野の研究が強くて、ものを作るなら東大、東工大、筑波大のほうが良いという話も耳にはしていましたが、京都の暮らしへの憧れの方が勝っていました。

### 東京を離れるときのご家族の反応は

**堀田** 東北や北海道は身寄りとなる親戚や知人がおらず反対されましたが、京都なら2時間もせず親戚のもとに行けるので地方に出ることを賛成してくれました。

**松本** 心配はされましたが、私も大阪と滋賀に親戚がいるので許してもらえました。

**南日** 一人暮らしに関してはなにも言われなかったのですが、京大なら寮に入っ



**熊谷 晃希さん**  
工学部物理工学科  
埼玉県立大宮高等学校出身



**南日 深平さん**  
法学部  
東京都立立川高等学校出身



**松本 愛さん**  
教育学部  
神奈川県立横浜翠嵐高等学校出身



**堀田 満里子さん**  
教育学部  
渋谷幕張高等学校出身

てと言われました。三人兄弟全員大学生でかなり学費がかかっているようです。

**熊谷** 京大なら一人暮らしも許してくれるとのことでした。下に弟が二人いるので、国公立には言われていました。

### 京都大学でしたいこと

**南日** 僕は経済学と政治学に興味があります。ただ京大の経済は数理モデルに重点を置いているようで、僕の興味とは違う方向でした。入学する前にいろいろ調べたところ、法学部は経済学部の科目を法学部の専門科目として取れることがわかったので、法学にはあまり興味はないものの法学部に入学しました。東大の経済へという選択肢もありましたが、結局はアメリカから流入した数理モデルを活用している点は京大と同じで、僕はその手法そのものに懐疑的なため京大の法学部にしました。

**松本** 私がやりたいのは教育社会学です。高2の時に『反貧困』という本を読んで、貧困などの社会状況が影響して児童虐待や少年犯罪の要因になることを知り、そうしたことに関連した研究をしてみたいと思いました。教育社会学という分野を知ったのは大学案内ですが、4月の教育学部の同窓会で教授の方々とお話しする機会があり、教育社会学の先生とも実際にお話しすることができて刺激を受けました。これからがすごく楽しみです。

### 実際に京都大学に入ってみて

**南日** 自由だと思って京大に来ましたが、一般教養科目を一定量取らなきゃいけないかったり、出席もしっかり取る授業が多かったりと縛られる部分もあるというのが率直な感想です。今は、一般教養科目の勉強はほどほどにして、専門科目や自分のしたい勉強に時間を割こうと思っています。また、想像より普通の人が多いなとも思っています。異常ともいえる知的な好奇心と知識を持っているような個性に出会いたいです。

**堀田** 地元の潰れそうなスーパーを1万人くらいの署名を集めて立て直したというある特色入試生の高校時代の話聞いて、すごいなと思うと同時にかなり刺激

を受けています。

### 京都で一人暮らしをしてみても

**熊谷** とっても住みやすいです！自転車で東西南北どこにでもいけます。地元には海とか川がなかったのが鴨川が生活の中にあるのが新鮮です。

**堀田** 山があるのがいいです。高校が千葉でしたので潮のニオイはしていましたが、実家の周りは川ばかりでした。それから京都に来て初めて東西南北がわかるようになりました。東京では東西とか言われてもわからなかったですね。

**松本** まわりに自然がたくさんあっていいですね。空気がきれいだし星がよく見える。なにより一人暮らしがいい。めんどくさいこともありますけど楽しいです。友達を家に呼んでご飯作ったりとか、夜遅くに外出しても何も言われなかったり(笑)。でも最初は寂しかった。

**堀田** 私も冷蔵庫の音が鳴るのが怖くて、すべての音に反応していました。

**松本** 今ではもう慣れて家電も友達です(笑)。

**堀田** 一人きりが寂しいというより、家族に会いたいというホームシックにかかっています。4.5月は忙しくてそんな暇もありませんでしたが、落ち着いてからは寂しさが募っています。

**南日** 家事はほとんど母がやってくれていたのですが、料理、洗濯や掃除もしたことがありませんでした。初めて洗剤を買ってドキドキしながら洗濯機に入れたんですけど、そのまま粉入れたら白くなっちゃって(笑)。母に電話して解決しましたが、家のありがたみがわかりました。

### 先輩へのメッセージ

**熊谷** 現役の時の入試結果は合格最低点からマイナス150点くらいでした。浪人時代は、「自分はまだまだ下にいる」という意識を持って勉強できたことがよかったのかもしれない。現役のときはいろんな問題集を使って、量はこなしていましたが、定着したのか、アウトプットをしっかりできるのかとは別問題でした。量をこなして安心していたころもがあったのだと思います。京大の問題はどの道具をどう使うかっていうところが

大事。浪人時代はその辺も意識して勉強しました。やはり基礎的な概念をしっかり理解しなくては行けませんね。

最終的には現役のときにボロボロだった理科で高得点を出せたので合格できました。受験を通して学んだことは、大体のことは気持ちの持ち方次第でなんでもなる、ということです。どん底から這い上がってきた感じで今は本当に楽しく過ごせています。やればなんとかなります。

**南日** 僕は和田秀樹の『塾に行かずに東大に受かる勉強法』って本を読んで勉強のしかたを学びました。この本のいいところは、例えば英作文の内容が思いつかないならこの参考書がいい、というように細かく分けて書いてある点です。おまけにその参考書を終えるのに必要な時間も書いてあります。僕はこの本を読んで自分がやるべき参考書とその時間を出して、1日に勉強する時間の目安を出しました。綿密に計画を立てて定評のある参考書を使えば、塾にいなくてもちゃんと伸びると思います。この本は東大の問題にあわせて分野網羅的でしたが、細かい部分は京大に活かせると思います。

**松本** 京大の問題って、京大の先生たちからのメッセージが詰まっていると思います。だからどんな人が欲しいか、どういう頭の回転が求められているのかって考えながら問題を解いていくとどういことを答えたらいかが結構わかってくると思います。あとはもう自分を信じて頑張るしかないです。今しか頑張るときはないので。最後の最後は自分とちゃんと向き合ってきたかにかかっていると思います。

**堀田** 学校から向かう先は受験しかない、と事あるごとに言われ、高2の冬ぐらいいから周りのみんなも勉強を始めて、もう勉強しなきゃいけないみたいな感じで、今をちゃんとエンジョイできなかったのが心残りです。振り返ってみて、もっと気楽にできなかったのかなって思います。大学に入ってから周りに話を聞くと、夏ぐらいいまで部活や課外活動をやったという人も多いですから、そんなに自分を追い込みすぎなくても、高校生活の一環として受験に向き合ってもらえたらいいのかなと思います。



連載  
その10

# 哲子の 相談室

日本文理大学特任教授 北岡 哲子



### Profile

異分野から工学の世界に入り、感情・表情・脳と癒しをテーマに北岡オリジナル癒し工学を提唱。工学、医学、芸術、心理学、環境学、社会学、宗教学、宗教人類学の学際研究に従事している。08年12月に日本機械学会計算力学部門に「癒し工学研究会」を設立。09年、東京工業大学において博士(工学)を取得。日本機械学会、日本感性工学学会、日本早期認知症学会、日本脳電位学会、2011年日本機械学会「癒し工学研究分科会」主査。東京工業大学大学院助教を経て、2015年4月より現職。他に自動車事故対策機構、自動車アセスメント等技術検討ワーキンググループ「予防安全技術検討ワーキンググループ」委員。著書は『癒しは科学で手に入る』(幻冬舎ルネッサンス新書)。2015年春からは、日経テクノロジーオンラインで「スポーツをテクノロジーする」を、電気新聞で「癒し工学の散歩道」を連載中。青山学院高等部出身。

## 地方国立に行きたい、でも母親が反対

**相談** 進学校の3年男子です。東大生を多く輩出している高校なので、自分も気持ちの上では東大受験と思ってきたが、学校の成績は中位で、模試は当然E判定。東大合格には例外なく評定4.0以上が必要だから、一念発起しても合格は絶対無理。部活も夏まで続け文化祭にも有志で出たい。地方の旧帝大には希望の専攻があるから行きたいとも思うが、母が大反対。仕送りの負担が大きいというのが表向きの理由だが、本音は親元から離れたいのだ。母とは仲が良く、寂しい思いをさせるのは自分も悲しく本意でないが、なんとか母が穏やかに納得してくれないものか…

**回答** まず、今回一番印象的な言葉は、母が悲しむと自分も悲しいというあなたの気持ちを表したものでした。

親思いの優しい息子に成長してくれて、母親冥利につきますね、お母様は。

現代日本家庭の育児事情はご存知のとおり、核家族化(親とは別居)、少子化、離婚世帯や未婚の母の増加等、全体的に家族構成員が少なくなる傾向にあり、家庭の子育て機能は低下しています。昔の母親が心配事や仕事を多く抱えていたにもかかわらず、家庭や地域の連帯に支えられ、比較的安定した健全な子育てができたのに対し、今の母親は、科学技術の発展による家事の負担軽減(紙おむつ、ベビーフード等)もあって、時間的な余裕もできましたが、子育ての重責が一人の肩にかかり、過保護、過期待、過干渉などの母子癒着を助長したり、対人関係の希薄化から家庭という閉鎖的空間での幼児虐待など、様々な問題を深刻化させたりしてきました。その一方で、そのように変化した育児環境の恩恵を十二分に受け、あくせく髪を振り乱すこともなく、楽しみながら子育てをする母親も出現し、その結果、反抗期もなく青年に成長した子供と仲の良い母子関係を構築した姿があちこちでみられるようになりました。

女子高生の読者のみなさんも、大学進学後には就職し、いずれ家庭を持つでしょう。そ

の際、相手の男性がどんな母との関係性の中で育ってきたのかはとても重要なことですが、やがてできるであろう子供が男の子である可能性も大なので、母-息子の関係性は、他人ごとではなく重大です。

ところで先日、興味深い調査結果をみつけました。首都圏に住む高校生や大学生の息子と同居する女性(母親)437人に聞いたもので、その中で息子さんの部屋に入ったことがありますか、という問いに、なんと、83.5%の母親が「自由に出入りでき、息子も了解している」と答えています。以前は、思春期を迎える息子の部屋には入ってはいけないという暗黙のルールがあったものですが、入るのもOK!しかも息子も了解しているというのは驚きでした。勿論、「無断で入ると怒られるので、入らないようにしている」という母親も全体の16%と少数ですがいらっやいました。

また「息子さんと2人だけでどれくらいの頻度で外出しているか」という質問には、母親の3人に1人(33%)が、月に1回は息子と2人だけで外出していると答えていました。昔の男の子は母親と一緒にいるところを見られると恥ずかしいというのがあたりまえだったと認識していますが、時代は変わりましたね!!

さらに驚いたのは、「息子さんと普段どんなスキンシップをしていますか?」の質問に対し、「(心も体も大きく成長する時期なので)あまりスキンシップをしない」と答えた母親が約半数の50.1%。それに対し、幼稚園児でもないのに、「頭をなでる」「ハイタッチする」「ハグする」などのスキンシップをするという母親が、それとほぼ同数いらしたことです。

特に「手をつなぐ」という回答も2.3%あり、考えさせられました。

そういえば最近、母親と仲良しの「ママっ子男子」なるものが女性誌等で取り上げられ、話題になっていたことを思い出しました。ママっ子男子とは、母親にあまり依存せず、対等に近い関係性を保ち、一昔前、ドラマでマザコンの典型として描かれていた「冬彦さん」のような気持ち悪いイメージとは全く異なり、若い世代の女子からの評価も高いそうです。なんでも最近では、大学生の合コンでも母親との仲の良さを自慢する男子がたくさん

て、それを女子が好意的にみていると聞きました。

ママっ子男子と母親は、母親が美容やファッションを、息子がSNSやネットの使い方といったように、お互いの得意分野を教えあうなど、まるで同世代の異性の友人のような関係なのです。たしかに現代の母親はおしゃれで気持ちも若いので、子供も母親と一緒にいて友人、知人に見られても恥ずかしくないのでしょうか。

この現象の背景には、母親がちょうどバブル期を経験している世代であることが考えられます。彼女たちは洗練されていて、年齢を重ねても何事にも貪欲で向上心が強く、楽しんで生きている術を知っている。だから、家族関係が煩わしいと子供に思われるような、ダサい高圧的な態度もとらないわけです。また子供の側も、SNSが浸透している世代なので、友人を信用してうちあけた悩みが拡散してしまい傷つくようなこともあるでしょう。そんな時、親は最も信用のおける味方なわけですから、仲良くしていた方がいいにきまっています。ちなみに、お互いに自分というものをきちんと持ち、不足する部分を補完しあうよい母-息子の関係の築き方、言い換えればママっ子男子の育て方には秘訣があるそうですが、今回のご相談からはあまりに脱線してしまうので割愛します。

ご相談の最後に、地方国立大学志望の同級生たちも母親に強く反対されていること。その中であなたは、一人暮らし、旧帝大の伝統や実績に憧れを持ち、大学所在地の独自の文化・風土を体験できるのもすごく楽しみだ。また部活動の交流も盛んと聞くので、これまで続けてきた柔道でも目標が持てる。そして父は賛成してくれているのでぜひ行きたいと結んでありましたね。これを見て、まさにあなたは、母に依存しているマザコンではなく、ママっ子男子だと、確信しました。お父様と2人で、あなたの本心ややりたいこと、冒頭の母の悲しみが自分の悲しみだという気持ちを正直に伝えてあげてください。絶対にお母さまの気持ちは動きまますよ。ぜひ素敵な母子でいる努力をしてほしいと思います。親子といえども、よい関係は、思いやる努力なくては保てませんから(続く)。

このコーナーでは読者からの相談を受け付けています。お気軽に下記のアドレスへご連絡下さい。kitaokat@nbu.ac.jp

## 16歳から の 大学論

## 趣味と研究は どう違う?

第11回

京都大学学際融合教育研究推進センター  
准教授 宮野 公樹先生

### Profile

1973年石川県生まれ。2010~14年に文部科学省研究振興局学術調査官も兼任。2011~2014年総長学事補佐。専門は学問論、大学論、政策科学。南部陽一郎研究奨励賞、日本金属学会論文賞他。著書に「研究を深める5つの問い」講談社など。

前回、趣味と研究の違いとは、両者における興味・関心の「性質」が異なる点にあると述べました。趣味のほうは、えてして続けられれば続けるほど「広く」、あるいは「細かく」なっていくでしょう。例えば、やっとこの珍しい蝶を捕まえることができた!とか、あるいは、この蝶とこの蝶はすごく似ているけど生息地域は違うとか。そういう特定の事柄に対して物知りであること、博学であることが趣味の醍醐味であるように見受けられます。鉄道マニアをイメージすればわかりやすいでしょう。

一方、大学での研究は、進めれば進めるほど「深く」なります。研究者は、収集や情報獲得というよりもむしろ原理や法則に関心があるのです。例えば、その蝶はなぜそのような生態系をもつに至ったか、なぜそのような生息域の分布になったのか、そのようになったのにはどのような理由があるのかといったように、蝶を超えたところの不思議を追い求めているのです。

さらに、そのような研究において大事なものは、原理や法則をなぜ自分は知りたいと思うのか、ということまで研究者自身が認識していることです。「私は蝶が好きだから」でやっているのは趣味。そこに留まるのではなく、日々の研究活動を通じて「なぜ私は蝶が好きなのか?」までを真剣に考え続け、例えば人間にとつての昆虫というものの存在や、生物史を踏まえた生態系における人間の存在の謎(不思議)に触れることが学問です。ここまで考えるからこそ、個人の興味・関心のレベルを超えて、人間にとつての興味・関心となる。万民に通じることであるからこそ、それは国費を投入することに値するのです。

以上、趣味と研究における興味・関心の性質の違いについて述べました。しかし正直に言って、趣味と研究の違いについてこのように考える研究者は少ないように思います。つつい安易に、論文を書くことが研究者と趣味人の違いであるとして、その興味・関心の質の違いまで注意が払われていないように思います。さらに筆をすべらせるなら、その論文を書くこと、いわゆる「論文生産」が最優先になり、何のために論文を書いているのかという、研究者魂に関わる根本的な問いを深く自覚していないように思えます。論文は、前例研究をざっとレビューして誰もやっていないこと、かつ、自分ができることを見つければ完了です。あとは研究するだけ。もちろん、その研究には苦勞がともないますし、専門的な知識や手法の蓄積が必要です。それゆえ、どうしても自分は大事な仕事をしていると錯覚してしまいやすいんです。これは危険な落とし穴です。

自分は自身の研究領域の狭い問題意識に囚われてはいないか。あるいは、社会的課題といった外から与えられた問題にばかり応えようとして、自分自身の内からわきでる問いを置き去りにしていないかなどの、自分を見つめる内省の目が絶えず必要なのです。それがないと、「研究」ではあっても「学問」とはいえないでしょう。次回は、さらに研究者がもつ興味・関心について掘り下げていきます。「興味・関心に優劣はあるのか?」です(続く)。

「どうして数学を学ぶの?」と「書評」は休ませていただきました。

## シリーズ 大学が地域の核になる—京都文教大学の挑戦

# 地域の子どもたちから学び、地域の子どもたちへ還元する、「遊びの出前」

保育士のテーマは「子ども」。そして、子どもたちの隣には親がおり、親子は地域で暮らしている。保育士をめざす京都文教大学の学生たちは、地域の中で子どもたちに出会おうと、「遊びの出前」を始めた。子どもたちにとって、「遊び」はとても大切。「遊び」を介して、学生たちは地域の親子の輪の中へ…

今年で設立5年目を迎えた京都文教大学臨床心理学部教育福祉心理学科は、「一人ひとりの子どもや親子のことを共感的に理解できる小学校教員・保育士の養成」に取り組んでいる。そして、もう一つの合い言葉は、「地域の教育・福祉現場との緊密な提携の中での学び」。様々な実習参加はもちろん、課外でもいろんな活動を展開している。本紙vol.123では、小学校教員をめざす学生たちが、地域の「子ども食堂」で学習支援を行っている様子を紹介した。今回は、保育士をめざす学生たちの取り組みを紹介しよう。

### きっかけは、ゼミでの保育園児との交流から

本学科開設当時から、宇治福祉園(保育園)との活発な提携を行ってきた。保育園と大学が、子育て支援のうねりを地域で活性化させようと、共同で地域の子育て支援関係者や保護者たちに呼びかけ、子育て支援セミナーを開催した。ネーミングは「こらぶれーしょんセミナー」。子ラブ・コラボを組み合わせた命名であ

る。学生たちは、裏方でお手伝いしてくれた。学科開設2年目の活動である。

翌々年の「こらぶれーしょん」の取り組みテーマは「子どもらしい自然な姿を捉える」とした。学生目線で捉えた子どもの姿は、保育のプロが見逃してしまっているような新鮮なものかも知れない…。保育士コース3回生のゼミ生が、デジカメを持って初夏の保育園を訪れ、自由遊びの場面を観察し、子どもらしい姿の写真を学生目線で撮った。秋には保育士コース4回生全員で保育園を5回訪れ、写真を撮った。撮影した写真をパワーポイントを使って編集し、この年の「こらぶれーしょんセミナー」で発表した。学生が地域デビューのはじまりである。

### 「遊びの出前」をしよう!

この頃から、「遊び」は保育士の専門領域なので、自分たちでオリジナルな遊びを開発し、これを地域の子どもたちや子育て中の親子に届けたいという思いが、学生や教員の中で生まれってきた。そして、学生数名が集まり、「遊びの実

践研究会(通称「遊び研」)」が誕生した。活動は、学生の実習や就職についてきめ細かくフォローしてくれる「サポートセンター」で続けられ、サポートセンターの職員(元保育士)が学生を指導している。

オリジナルな紙芝居やエプロンシアターの制作などが始まった。しかし活動のフィールドがない。そんな頃、私たちが提携している宇治福祉園では、休日の保育園開放を行っており、若いお兄さん・お姉さんが遊んでくれるコーナーを求めている。「ここが交差点だ」と思い、学生に相談すると、「こちらからも押しかけてみようか」「私たちの『遊び』を出前しよう」ということになり、出前の話はすぐに実現の運びとなった。

### いろんなフィールドが広がってきた

出前が決まると、学生たちは、俄然張りだした。最初の出前は秋だったので、落ち葉をいっぱい集めてきて、落ち葉とふれあったり(落ち葉プール)、落ち葉を使った貼り絵制作などの「遊び」を出前した。

少しずつ、地域から「遊び出前」へのニーズが聞こえてきた。久御山町の子育て広場や、宇治市槇島地区の「子ども食堂」などから、遊びを使って子どもたちと学生が交流してほしい、これが子どもたちの心の支えになるというニーズが寄せられた。遊び研メンバーは、もちろん、GO!である。ささやかに始まった遊び研であるが、活動趣旨は少しずつ後輩たちに伝播し、今では、2・3・4回生の「出前チーム」がスタンバイ出来ている。

### 子どもに学び、子どもに還元する

保育士のたまごたちにとって、子どもに学び、学びの成果を子どもに還元する、地域の子どもたちに「遊びの出前」活動することは、大きな体験になっている。紹介してきた出前フィールドへの関わりは、全て現在進行形である。地域の子どもたちとの交わりの中で育った今年の卒業生の多くは、保育所保育士や児童福祉施設の保育士として現在活躍中である。







日本語力を高めよう

# 言葉に映せて、初めて知っていることになる

## 論理的であるとは、長い文を理解し、長い文で発信できること

ブラックホールに関してアインシュタイン方程式の「トミマツ・サトウ解」※を発見したことなどで知られる宇宙物理学者佐藤文隆先生。日本で最初のノーベル賞受賞者である湯川秀樹博士の著作集の編者として知られる一方、高校の教科書や一般向けの著書も数多く発表されています。その論理的な文章は、中学や高校、大学の入試問題などでもおなじみです。グローバル化が進展する中、英語力を高めるのはもちろん、母国語の力を高めることがこれまでにままして重要であることを、科学者の立場から語っていただきました。

※1972年。この功績で翌年には雷松彰とともに仁科記念賞を受賞。



宇宙物理学者 京都大学名誉教授  
**佐藤 文隆** 先生

### Profile

山形県出身。1960年京都大学理学部卒業、1964年核エネルギー学研究室の助手、1971年京都大学基礎物理学研究所助教授、1974年4月同教授。1976年4月京大基礎物理学研究所の所長。1986年理学部教授、1993年理学部長、2001年京都大学を定年退官、甲南大学教授。2013年甲南大学退官。1973年仁科記念賞受賞。著書多数。山形県立長井高等学校出身。

## グローバル化と科学・技術イノベーションの加速する今こそ、英語力だけでなく日本語力も高めよう

### 科学・技術用語はバイリンガルで覚えよう

グローバル化の進む世界では、科学・技術分野を目指す人にとっても、英語力を身に付けることがますます重要になってくることは言うまでもありません。

日本は明治時代、西洋の学問、とりわけ科学・技術を積極的に移入し、今日までに、世界有数の科学・技術大国としての地位を築いてきました。その一つの要因として挙げられるのが、西洋の学問をすべて日本語に翻訳したことです。おかげで非ヨーロッパ語圏の国で、大学まですべて母国語で専門教育を受けられるのは日本だけと言ってよい。中国や韓国の大学でも母国語を使って教えていますが、多くは日本が明治時代に作った翻訳語を逆輸入して使っています。

しかしこの成功は、今日、皮肉にも日本の教育界、特に大学の国際化、グローバル化を促すにあたっての大きな足枷にもなっています。日本の研究者は、国内の研究組織が大きいこともあって、日常、英語を話す必要がない。そのため、私の友人のノーベル賞受賞者ではありませんが、英語を読むことはできても話すのが苦手な人も多い。そのため、海外で教えたり、学んだりするだけでなく、海外から留学生を招くのにも支障がある。

もちろん、最初から翻訳などせず外国語を使ってくればよかったとか、日本はいぶん遠回りしてきたということではありません。ノーベル賞がすべてではありませんが、その獲得数においても、日本は非ヨーロッパ語圏ではトップですし、これだ

け大きな科学・技術の世界を作り上げたことは日本の大きな財産です。

ただこれからは、次々と生まれる新しい科学・技術の用語については、高校生ぐらいからでもバイリンガルで接した方がいいと私は考えています。科学・技術の基本を学ぶのに必要な語彙は、すでに明治時代に揃っているからそのままでもいいですが、近年、急速に増えている新しい用語については、カタカナ表記ではなく英語のまま覚えていく方が早いのではないかと。また、用語の問題とは別ですが、日本語に比べて論理的である英語で学ぶ方が、テキストも理解しやすいかもしれません。湯川秀樹は、旧制高校の物理の勉強に、アメリカの工業系の高校受験レベルの参考書で勉強して自信を深めたといっています。

そこで私が編集者であるある物理の教科書では、ある時期から基本的な用語は英語との併記にしました。今ではほかの出版社も取り入れています。こうすることで伝統的な用語でも、方程式はequationであると知ったり、そこから根の公式は英語で何というのかといった具合に興味を広げていけばいいと思います。江戸から明治までの日本の知識人は漢文の素養を身に付けていましたが、彼らが中国語の発音、中国語での会話ができたわけではありません。しかし読解できていただけでも大きな意味があった。それと同じように、これからは高校生のうちから、サイエンスのボキャブラリーを豊富にして、英語の文章にも怖じづかないだけでもずいぶん違うと思います。親も知らない新しいことを知ると大人になった気がします。

### 長い文を書こう

これからは、英語力に加えて母国語、日本語力を高めておくことも大事です。

私はある力学の教科書に、「学問としての科学というのは、自然をありのままに見ない修行である」と書いたことがあります。自然科学を学ぶ際にはよく、自然をありのままに見る、観察するようと言われることがありますが、それは物事の半分です。自然や現実をありのままにじっと見ることは大事ですが、それで何かわかった気にはなりません。それは知ること、理解したことにはならない。それらは言葉に映しとって、つまり「自然をありのままに見ない」ことで、はじめて知っている、理解したことになるのです。学問とはそういう人に伝えられるかたちで理解することです。

もちろん職人技やスポーツの技など、体で覚えるという身につけ方もあります。しかしみなさんが日頃学校で学んでいる勉強、すなわち学問を学ぶというのは、知識を言葉にする、言葉に映しとることなのです。それは単に自然をありのままに見るだけではないのです。

最近の授業や教材には映像メディアが増えています。映像を使って視覚に訴え、長々とした説明を省く。それはそれで大いに活用すればいいと思いますが、それらは理解の助けにはなってもそれだけで理解が完了するわけではありません。映像といった新しいメディアも、ありのままの自然の代用品であることには変わりありませんから、理解するということがやはりそれを言葉に映しとることが必要なのです。

人類は、自然、現実をありのまま見ていたところから、それを言葉に映しとり、長い年月をかけて今日の知の体系、文化を作り上げてきました。それらを次の世代へと伝えてきたのも言葉によってです。このことは、すでにお気づきかもしれませんが、何のために勉強するのかという問いの答えでもあります。

「言葉に映しとる」というときの「言葉」とは、日本に育ったみなさんにとっては当然、日本語です。科学・技術分野に限らず、学問や勉強の理解、それを発信するには、当然、日本語力が一つの鍵となります。また学問、勉強とは自分の考えを相手に伝える論理の体系の中に押し込む作業ですから、一定の長さの日本語を読んだり、話したり、書いたりする訓練がどうしても必要です。

この点で、最近のSNSなどで交換されるメッセージがどんどん短くなっている状況には危機感を抱いています。これではごく親しい人間にしか理解できず、その枠を超えたグローバルコミュニケーションが求められる時代に逆行しているだけでなく、動物の叫び声への退化のようでもあり、学問の基本である、論理的に考える力を弱めるのではないかと心配です。

私たちの言語文化を特徴づけるものの一つは翻訳と言っているでしょう。外国語に触れることはその文化に触れることでもあります。当てはまる日本語を考える工夫、努力は文化の比較や理解のための努力でもあり、その作業には日本語の総合力が必要です。グローバル化の進む今こそ、これまで以上にこのことを強く意識しておくべきではないでしょうか。

## 宇宙航空理工学科

「宇宙に憧れる」「航空機が好き」その思いを技術に変える。宇宙航空産業の集積地で体験しながら学ぶ環境をそろえ、モノづくり現場の未来をけん引する人を育成します。

2018年  
4月開設  
【定員80名】

## 電気電子システム工学科

電気システム工学科 + 電子情報工学科

"スマートな社会"を実現する  
"次世代製品"を生み出すため  
企業の要請に応じて学びのカチと環境を一新！  
新しい発想や価値を創造できる  
次世代の技術者を育成します。

2018年  
4月開設  
【定員160名】

## 都市建設工学科

まちづくりのプロフェッショナルに  
ふさわしい知識・技術を  
修得します。

2018年4月  
定員増  
【定員80名】

10/7<sup>±</sup>

予約不要  
入退場自由  
9時30分～15時00分

受付開始9:30  
会場 春日井キャンパス  
受付 三浦幸平  
メモリアルホール  
(正門入ってすぐ左)

- 学部別学科説明会
- 保護者対象説明会
- 実験・実習
- 大学・入試説明会
- 学科別ミニ講義
- 学食体験

オープンキャンパス



中部大学

〒487-850 愛知県春日井市松本町1200  
0120-873941 中部大学入学センター

### 文理融合7学部がワンキャンパスに集結する総合大学

- 工学部 機械工学科/電気システム工学科\*1/都市建設工学科/建築学科/応用化学科/情報工学科/ロボット理工学科/宇宙航空理工学科\*2
- 経営情報学部 経営総合学科 ■国際関係学部 国際学科 ■人文学部 日本語日文化学科/英語英米文化学科/コミュニケーション学科/心理学科/歴史地理学科 ■応用生物学部 応用生物化学科/環境生物科学科/食品栄養科学科(食品栄養科学専攻、管理栄養科学専攻)
- 生命健康科学部 生命医科学科/保健看護学科/理学療法学科/作業療法学科/臨床工学科/スポーツ保健医療学科
- 現代教育学部 幼児教育学科/現代教育学科(現代教育専攻、中等教育国語数学専攻)

\*1 2017年4月、既存の学科を統合し、開設 \*2 2018年4月、開設

中部大学の最新情報は  
ホームページへアクセス!

中部大学 検索

https://www.chubu.ac.jp